

武田さんと私

印象文

(まじめで計画的な人)

体育会系班 工藤秀将 (くどうひでまさ)

1.印象文

一言で言えば武田晴香さんは、とてもまじめで計画的な人です。私は、前々から自分の気分によってその場で判断していろいろ決めてしまいます。しかし武田晴香さんは私のように適当に決めるのではなく今回の散歩について計画を練るときにも時間や距離そして個々の希望などを聞いた上で最善と思われる計画を立ててくれました。このことには、私を含め他の班員も彼女に感謝していると思います。また写真係についても最初は私とカルロスがやる予定でしたが彼女が私と違ってまじめであることから当日カメラをちゃんと持ってきてくれそうなこと、そして印刷をするときにどうやって印刷するのかなどのことを彼女が提議してくれたおかげで写真係が彼女に決まり実際に散歩に行ってきた結果としてこの変更は正しいことだと感じました。

2、特に聞きたいテーマ：その個性的な性格について

今回少しの時間でしかありませんでしたが(多分)初めて二人だけで長時間話をしました。そのなかで武田さんに関するいろいろなことを聞いているうちにどのような思考、またはどのような生活を送ればこのようないい意味で個性的な性格が形成されるのかということが特に気になりました。このことに関しては今後に書いていきたいと思いますが、私のこの性格に関してはやはり自分が育ってきた環境に一番依存すると考えました。そのことから私は、武田さんの趣味などの私生活を中心に聞いていきたいと思いました。例えば武田さんは大学で軟式テニスを始めたのですが中学、高校と運動部ではなかったらしいです。それでも大学では軟式テニス部の雰囲気惹かれて入部したそうです。そのような考えで部活を決める人は他にもいるので特に不思議ではないのですが、特に興味をそそられたのは外国語の話をしたときでした。武田さんは英語や韓国語などの言語に興味があるらしいのですが特にその国に行きたいという気持ちはあまりないそうです。僕はそのことにとっても驚きました。普通その国に興味を持ちそしてその国に行きたいと思ってからその国の言語を学び始めるのが普通だと思います。しかし彼女は違いました。彼女は純粋に言語に興味があるそうです。このようなことなどが少し話ただけでたくさん出てきたのです。そのようなことか

ら私は彼女の性格について今後もそのことを掘り下げていきたいと思いました。
と、このようにして武田さんの性格にしたのは良かったのですが最終的には最初の話し合いで行き詰まってしまいました。もちろんそのインタビューの中でも今回のレポートで使えるものも多かったのですが最終的にはテーマをかえることにしました。

そして最終的なレポートを作る上で何をテーマにするか考えたときにやはり彼女が今までの人生上で一番大事にしてきたことをテーマにしようと考えました。そこで何を一番大事にしてきたかを聞いたところ彼女は音楽を大事にしているとのことでした。そのような経緯から私は武田さんと音楽の関係について書いていきたいと思えます。

3・話し合いの結果

一回目の話し合いについて

一回目の話し合いの場においては聞いているテーマが違うためにあまり音楽について聞けませんでした。とりあえずインタビューできたことを書きたいと思えます。まず音楽はJ-POPやクラシックを聴くそうです。特に勉強しているときによく聞くそうです。クラシックに関しては武田さんがピアノをやっていたこともありよくピアノ系のクラシックを聴くそうです。特に作曲家ではショパンが好きらしいです。彼女はピアノを5歳くらいのときから習い始めました。最初にピアノを始めたきっかけは幼稚園の同級生のおばあちゃんが自分のおばあちゃんと知り合いとなりその縁からピアノ教室を勧められたことでした。高校の頃は毎日1時間、休日には1.5時間も練習していたそうです。特にコンクール前においては毎日2.5~3時間も練習していたそうです。今も暇があるときには練習するそうですがさすがに部活や勉強で忙しくて思うように練習できていないそうです。コンクール前でないときでもほとんど毎日1時間も練習するというは僕にとってはとても驚きでした。しかし彼女は特にそんなにつらそうな気配はいっさいインタビュー中に見せませんでした。僕がもしピアノをある程度弾けたとしてピアノの練習を1時間やれと言われても多分無理だと思います。やはりそれができるのは本当に彼女がピアノを弾くことが好きだからだと感じました。

・二回目の話し合いについて

二回目からは具体的に音楽についてのテーマを聞くというのが決まっていたのでインタビューはわりかし簡単に進めることができました。最初に彼女の印象に残っているコンクールについて聞きました。そうしたところ小学校6年生のときにぼろ負けしたことについて話してくれました。そのとき彼女はさすがに苦々しい顔をして僕に話してくれました。そのコンクールでは周りにうまい人ばかりいたのです。しかし彼女は途中でピアノを演奏中に間違えすぎて曲が止まりまくって全く曲にならなかったそうです。その結果は予選落ちでした。この結果に彼女はかなりのショックを

受けました。その後の2、3ヶ月は本当にピアノを弾きたくなくなりました。しかし全く弾かなくなるとすぐにピアノの腕が落ちてしまうことから2、3日後にはまたピアノの練習を再開しました。僕はこの部分に関してとても共感しました。私も弓道をやっているのですが負け方があまりにも情けなさすぎると悔しい気持ちよりも敗北感によって弓を引きたくなくなることもありました。しかしそんな状況でも練習をしなければすぐ他の人に追い越されるので渋々練習を再開していました。その無力感僕の場合は時間が解決してくれていましたがそのことに関しても彼女は僕と同じでした。さてそんな惨敗を喫してから5年後の高校2年生のコンクールで彼女は見事に優勝を果たすことができました。これはその5年前の敗北にも最後まであきらめず地道に練習を積み上げてきた結果だと思います。

4・まとめ

今回2回の話し合いを通じて武田さんと音楽の関係についてあまり深いことまで話し合うことができませんでした。しかしながらたった2回の話し合いの機会を設けただけでも武田さんのピアノに関する情熱はひしひしと伝わってきました。ただやはりたった2回しか話し合いの機会がなかったのもなぜ彼女がそこまでピアノに魅せられたのかなどのさらに深いことについては聞くことができませんでした。このことに関しては後日機会があったら聞いてみたいと思います。以上のような2回の話し合いを経て僕が考え、そして武田さんも考えていることは、もはや彼女にとって音楽はもはや生活の一部となっており、少しでもピアノを弾かないと気持ち悪いと思えるほどに切っても切れない関係になっています。今でも暇を見つけては練習し、自分のピアノの技術を向上させるためにたゆまぬ努力を重ねています。ぼくはそのように自分の音楽に誇りを持っている武田さんを尊敬しました。

5・授業を終えて

5・1 文化、コミュニケーションとは何か

まず文化とは私はその人が住んできた場所、気候そしてその国の歴史またはその人の人生によって形成されそれこそが私たちが他の文化とふれあいたいという原動力にもなっていると思います。そしてコミュニケーションとは私は、その他人の文化と自分の文化を発信し共有するためにあると思います。

5・2 授業について

この授業に関しては知らない人とふれあい他人のことを真剣に考えることのできる素晴らしい授業だと思います。今回は班の人とたくさん交流することができ新しいこともたくさん知ることができたので本当に良かったです。